

Title	新年のごあいさつ
Author(s)	納谷, 敦夫; 相良, 武彦; 岸, 廣成 他
Citation	makoto. 2006, 133, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85774
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

新年のごあいさつ



大阪府健康福祉部長

納谷 敦夫

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日ごろから本府の健康福祉行政に格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、近年、ノロウイルス、O157、アスベスト問題など府民の生命、健康を脅かす健康危機事象が多く見受けられるようになっていきます。特に、東南アジアで発生している高病原性鳥インフルエンザは治まりを見せず、その後も中国、モンゴル、ロシアやヨーロッパにも渡り鳥を通して拡がっていることが確認されています。このような状況の中でウイルスがヒトからヒトへの感染力を獲得し、大規模に流行する新型インフルエンザの出現の危険性が高まっており、その発生予防やまん延防止に向けた治療薬の備蓄やワクチンの開発など、世界的な対策として準備が進められています。

そのためわが国においても、昨年10月、新型インフルエンザ対策本部が厚生労働省に設置され、11月には新型インフルエンザ対策行動計画が発表されました。

大阪府におきましても、昨年12月に「大阪府新型インフルエンザ対策本部」を設置するとともに、行動計画を策定したところです。今後、これに基づき新型インフルエンザの早期検知や発生時の迅速な対応、感染拡大防止、府民の不安解消に努めていきたいと考えております。

貴協会におかれましては、永年培われてこられた防疫あるいは環境衛生対策などに関する豊富な経験や高度な技術を遺憾なく発揮され、府民が健やかに暮らせるよう、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍、ご健勝をご祈念いたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



財団法人 大阪防疫協会

理事長 相良 武彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はなにかとお力添えを頂き有り難う御座いました。本年も変わらず御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、過ぎ去った1年は短いようですが、振り返ってみれば昨年も様々な事件や事象が起きています。中でも大きかったのはJRの尼崎事故ではないでしょうか。今まで想像も出来なかった事故だけに深刻な衝撃を鉄道利用者にも与えたものです。効率と利益を優先するあまり、いつの間にか安全を軽視する現代の風潮が事故原因の一端をなしている気がしてなりません。アスベスト問題もそうですし、相次ぐ、企業の不祥事隠しもそこに繋がっているのではないのでしょうか。また、それを象徴するかのよう年末には耐震強度偽装問題が起きました。安全は全てに優先する、安全第一主義こそ結果としてもっとも利かなっている、と思うのですが。

人の安全と言えば、昨年来、世界各地で発生している高病原性鳥インフルエンザの事、もし、そのH5N1型ウイルスが変異して、人から人へと感染する新型インフルエンザになれば懸念されています。もし発生すれば、今日の、人の移動状況から、瞬く間に世界中に流行するであろうと、各国の関係者は緊張しています。

各種の環境衛生維持管理業務、簡易専用水道法定検査業務、ワクチンを含めた防疫薬剤の販売業務を通じて人々の健康な暮らしに奉仕する当協会としましても、日々のニュースが非常に気にかかります。そういった事態にならずに終息することを願っています。

原油価格が高止まりしていますが、日経平均株価その他の経済指標に明るさが見えてきました。どうかこのまま日本経済が実体を伴って本格的に回復し、しかも持続し、大勢の人がその恩恵を受け、未来に希望が持てる世の中になることを期待しています。

どうか今年が皆様方にとりましてより良い年になりますことを祈念して新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪市健康福祉局
医務保健総長

岸 廣 成

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の健康福祉行政の推進に格段のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、パキスタンの大地震、アメリカのハリケーン・カトリナをはじめ、多くの災害が発生し、深刻な被害をもたらしました。また、昨年来人々に健康不安をもたらしているアスベストに関する諸問題、アメリカでの流行が問題となっているウエストナイル熱や新型インフルエンザの世界的な流行が危惧されるなど、市民の安全や健康に関する重大な課題が山積しております。

大阪市では、大規模地震、都市型水害や感染症・食中毒等による危機事態について、常日頃からの危機管理体制の一層の充実を図りながら、市民一人ひとりがそれぞれのライフステージで、安心して心豊かに暮らすことができるようなまちをめざして、快適な都市環境の実現に力を注いでおります。

一方、本格的な高齢社会が到来する中、本市では市民の健康に密着した健康福祉行政の推進が一層重要になると認識しており、今後、より一層、保健・医療・福祉などの充実に努めてまいりたいと考えております。

これらの施策を推進するにあたりまして、貴協会が永年にわたり培ってこられた防疫対策や建築物の維持管理に関する豊富な知識や経験、高度な技術を生かされ、快適な生活環境の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ



堺市健康福祉局健康部長

山 本 金 行

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素は、多方面において、本市保健衛生行政の推進に格段のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今、国におきましては、景気は改善の兆しがあるとはいえ、少子高齢化、人口減少社会が迫りつつあり、これらの影響を受け、極めて厳しい財政環境の中で、三位一体の改革をはじめ、様々な構造改革が進められています。

本市におきましては、昨年10月26日に、政令指定都市に指定する政令が公布され、本年4月1日、政令指定都市への移行が正式に決定いたしました。全国で15番目、大阪府下で2番目の政令指定都市になります。本市では、円滑な政令指定都市への移行に向け、必要な準備を進めているところでございます。

一方、保健衛生を取り巻く分野におきましては、昨年に引き続き鳥インフルエンザへの対策をはじめとして、危機管理への対応が求められています。

本市といたしましても不測の事態に備え、より一層の危機管理体制の充実を図り、市民の健康の向上に努力して参りたいと考えております。

貴協会におかれましては、「健康都市・堺」の実現をめざした環境の確保のため、今後とも豊富な知識、経験、高度な技術をいかして、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝をお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



東大阪市健康福祉局

健康部長 谷山 均

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進に格別のご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年4月1日をもって本市は全国で36番目の中核都市に移行し、保健衛生をはじめ多くの事務権限が委譲されました。各種手続きの短縮化などで市民サービスの向上が図られるとともに、自治体としての政策形成能力が問われるようになり、新しい地方分権時代を担う市役所として変わっていかねばならない大きな節目と考えております。委譲された権限を最大限に発揮できるよう、今後とも「夢と活力あふれる元気都市・東大阪」を目指して取り組んでまいります。

国においては、高病原性鳥インフルエンザの発生の世界的な拡大、ヒトへの感染報告の増加を背景に、新型インフルエンザ対策のための正確な情報の提供、発生動向の把握、予防・治療など、その流行状況に応じた対応が求められています。

本市におきましても、より一層の健康危機管理の強化、関係機関との連携を密にする一方、日頃からの衛生害虫の駆除、市民啓発などの対策を充実させ、防疫面での迅速な対応に向けてより一層努力してまいります。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた豊富な経験や高度な知識・技術・業績をもって、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



大阪府保健所所長会 会長
大阪府泉佐野保健所 所長

岡澤 昭子

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様方には、平成18年の新春をすすがしくお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、保健所事業各般にわたり、ご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年2006年、21世紀に入って丸5年が経ちました。「戦争の20世紀」から「平和の21世紀」がくると希望していたのに、現実にはテロとの戦いが続いています。さらに、これからは感染症との闘いもますます重要な課題となっています。人類の歴史は、感染症との闘いの歴史といっても過言ではありません。医学・医療の進歩により、人類は感染症を制御してきたと信じていたのに、微生物のしたたかさには舌を巻くばかりです。

近年、東南アジアを中心に高病原性トリインフルエンザが流行しており、このウイルスがヒトに感染し、死亡例も報告されています。新型インフルエンザとして、1918年（大正7年）に発生したスペインインフルエンザ大流行と同規模の大流行を起こすと、わが国だけでも、最大約2500万人の患者が発生し、入院患者は約200万人、死亡者は約64万人と危惧されています。被害を最小限に食い止めるためには、新型ワクチンの開発、治療薬の充実、感染予防対策の徹底が急務になっています。大阪府の保健所は、貴協会をはじめ関係機関とともに、感染症対策に今後も全力を傾注する所存です。

貴協会におかれましては、これまで培われた豊富な知識・技術・業績をもって、保健所へのさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝・ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のご挨拶



財団法人
阪大微生物病研究会

理事長 東 雍

新年明けましておめでとうございます。
皆様方には、すがすがしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、財団法人阪大微生物病研究会のワクチン事業の遂行に格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、去年は郵政民営化の信を問うべく衆議院議員選挙が行われ、株式の景況など緩やかな景気回復の流れを受け、定員の三分二以上を占める連立与党の圧勝となりました。

今年は、今後の増税の動きも見え隠れしておりますが、国民の貴重な税を用いた国家予算の無駄を排し、国民の納得のいく形での税制や年金問題を活発に議論いただきたいと期待しております。

次に、昨年マスコミ等でも多く取り上げられ、身近に迫りつつある高病原性鳥インフルエンザウイルス（以下H5N1型）の人への感染がアジアからヨーロッパへと拡大している現状において、今後人から人への感染の成立による新型インフルエンザの発生が非常に危惧されております。

国内においても、現在H5N1型人用ワクチンの開発が国立感染症研究所を中心にインフルエンザワクチンメーカー4社（所）共同で進められております。私共微研財団でも既に、H5N1型の人臨床試験用ワクチンを作製しており、今後できるだけ早期に供給ができるよう鋭意努力している次第です。

去年は、7月に麻しん風しん混合ワクチンの製造承認を取得し、今年の春からの予防接種法改正に伴う定期接種に間に合う運びとなりました。また、新製剤棟で防腐剤を含まない製品の製造を開始し、今後益々皆様のご要望に応じていけるよう努めてまいります。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

